



社員は20～30代が中心。活気にあふれる職場。

会社情報

業種：水稲、果樹、野菜の生産、加工、販売、直売所やカフェの運営／従業員：11人（パート含む）／勤務時間：7時45分～17時15分（休憩90分）※／休日：月5日、冬期休暇など／その他：独身寮完備

※時期、業種により多少の変動あり。

千葉県北東部、山武郡横芝光町に位置する株式会社アグリスリー。代表の實川勝之さんは36歳で、前職であるパティシエの経験を活かし、加工や調理を見据えて農作物を栽培。自社で加工、加工品の販売も行っています。

若者が就農したいと思えるような清潔感ある職場環境づくりにも力を入れる同社。「生産部」「加工部」のほか、農産物や商品を販売PRする「営業部」を持ち、幅広い形で農業に携わることができ組織になっています。また、女性

農業を幅広く捉え 若者の個性を活かす

【千葉県】株式会社アグリスリー



練習を終え、午後には島バナナなどの作物を管理（上）。
高原代表は現役選手として公式戦にも出場（左）。



農業＋スポーツ＝「農スポ」

【沖縄県】沖縄SV株式会社

会社情報

業種：サッカークラブ／従業員：32人（選手25人含む）
／勤務時間：9時～18時（業務内容により異なる）
休日：基本的に週休2日／その他：寮・社宅あり

沖縄SVは平成27年、沖縄県に設立されたサッカークラブ。その経営者は、Jリーグやドイツ1部リーグなどで活躍し、ワールドカップにも出場した高原直泰さんです。チーム監督と選手も兼任し、設立翌年には、初参加の県3部リーグで全勝優勝。すぐに1部へ昇格して順調に好成績を挙げ、今年九州リーグに昇格しました。

効果で地域の活性化を目指す「農スポ」です。県内の休耕地を、高原代表や選手、スタッフが開墾して、島バナナやローゼルなど、沖縄ならではの作物を自然栽培。地域の事業所とともに作業をしています。収穫後は、試合会場や大手ショッピングモールでの販売も行います。



沖縄SVサッカーJr. ユースの子どもたちも参加して、開墾などを行う。

私が働いています！

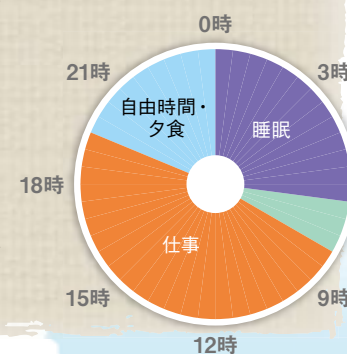
農業をはじめ、さまざまな事業に関わるのも楽しみ



中村裕二さん

マーケティング担当／42歳／平成27年12月入社
／妻と子どもの3人家族

東京で広告会社に勤めていましたが、平成27年に家族とともに沖縄へ移住。仕事はマーケティング業務全般で、農作業を手伝うこともあります。地元の皆さんに喜んでもらえることが日々のモチベーションになっています。サッカー以外でも地域に貢献できることや、地元で雇用を生むという面にも、やりがいを感じます。数年後に竣工する新スタジアムに合わせてJリーグに昇格できるよう、クラブ全員で頑張っています。



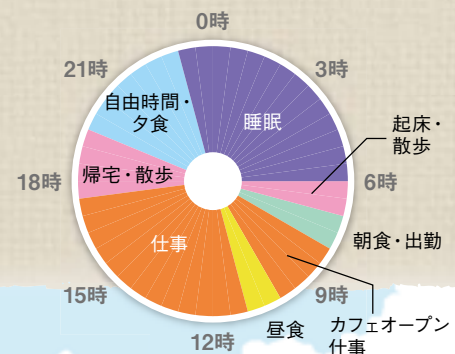
私が働いています！

カフェで地域の食材を発信。
農業と食でみんなを笑顔にしたい



本多日向さん

21歳／平成29年5月入社／入社後主に同社の飲食事業を担当



製菓会社に勤めていましたが、生産に近い現場で働きたくて会社を探していました。若い人が多く、生産から加工まで一貫して取り組むアグリスリーなら、自分の経験を活かして働けるのではと転職しました。現在の仕事は、平成29年9月にオープンした地産地消をテーマとするカフェの運営です。

お客様から「横芝光町にこんなおいしい食材があったんだ」という声をいただくことが多く、とてもやりがいを感じています。課題は広報と集客ですね。新メニューを開発してSNSで発信することも始めています。農業と食を通じてたくさんの方を笑顔にするために、まずはこのカフェを盛り上げていきたいと思っています。

現在はカフェの仕事が大半を占めるが、生産の現場を手伝うことも（右）。仕込みやメニュー開発まで、幅広く活躍中。いちおしメニューは特製ホットドッグ（下）。





全国新規就農相談センター

全国新規就農相談センターのWebサイトは農業インターンシップや自治体の就農支援、求人などの情報を網羅している。



「Agric」では、農業法人など農業関連の出展企業が自社の魅力をPR。



従業員募集、就農支援・相談、研修生募集、生徒募集と4種類のブースが用意される「新・農業人フェア」。

ステップ 3

就職先のひとつとして農業を選択

農業を仕事にしようと決意し、農業法人への就職を考えている人に向けて、一般企業と同じような相談窓口や説明会、求人情報提供など、さまざまなサービスが用意されています。

全国農業会議所は、各都道府県に「全国新規就農相談センター」を設置。農業法人の求人情報を公開するとともに、各都道府県で開催される就農相談会などの情報発信を行っています。就農や移住希望者の支援に力を入れる自治体も多くあり、総務省は、こうした情報の提供・相談の窓口として、「全国移住ナビ」というWebサイトを提供しています。

民間企業も就農支援事業に参入しています。株式会社リクルートジョブズは農林水産省の補助を受け、全国の主要都市で「新・農業人フェア」という大規模な就農相談会を開催しています。また、アグリコネクト株式会社が主催する「Agric（アグリク）」は、農業法人や農薬メーカー、農産物販売会社など約50社が出展する就農イベント。今年は4月14日に東京流通センター（東京都大田区）で開催が予定されています。

未来の経営者を育てる 農業大学校の模擬会社



学生が営業や経理などの役割を分担。自分たちがつくった農産物などの値段を決め、販売するといった法人運営を経験する。



42の道府県が設置し、実践的な教育を行っている農業大学校のうち、昨年度は千葉、今年度は埼玉と宮崎で「模擬会社」の制度の導入が相次いでいます。農業法人の経営者や社員として必要な力を身につけてもらうという試みであり、さががけは徳島の農業大学校です。

同校で指導に当たる助教の白田英樹さんは「平成22年に、学生の経営力の向上を図るとともに6次産業化を担う人材の育成を目的として模擬会社『徳島農大そら そうじゃ』を設立しました。社名は『同意と共感』を表す経営理念を表します」と説明します。全学生が社員で、社長や部長も学生です。学生が所属する3つのコース、生産技術・地域資源活用・アグリビジネスそれぞれが事業部となり、農畜産物を生産。ジャムやハチミツなどの加工食品を企画開発し、これを模擬会社が校内の直売所「きのべ市」や徳島市の市場などで販売しています。平成25年には大手量販店への出荷も始まりました。



実際に農業法人で働くことで、農業を肌で感じる事が可能。農家の人たちの出会いなど、得ることは少なくないはず。

農業ツアーや農泊に参加して農業への興味が増し、より本格的に取り組んでみたくなったなら、インターンシップという制度を利用して仕事としての農業を体験することが出来ます。インターンシップとは一定期間、実務を体験する仕組みです。例えば、一般社団法人全国農業会議所は、平成11年度から農林水産省の補助を受け、全国約300社の農業法人で「農業インターンシップ」を実施しています。体験内容は、農作物の栽培、農産物の加工・販売、家畜の飼養などさまざま。この制度は農業法人の採用内定者の事前就業体験として利用することも出来ます。

このほか、インターンシップを取り入れている農業法人もありますし、募集をかけている自治体も少なくありません。

体験した農業法人にそのまま就職したり、インターンシップを通じて、仕事としての農業のイメージを膨らませ、就農活動に活かすことが出来ます。

ステップ 1

農泊を楽しみながら農業を体験



写真提供／（公社）ツーリズムおおい

親子で参加できる日帰りツアー、収穫体験、採れたての作物をいただくランチタイムなど、バラエティに富んだ内容のツアーや農泊が登場している。

農業に興味や憧れがあり、将来の仕事にしてみたいと思っても、家業を継ぐわけでもない、まったくの未経験者の場合、分からないことばかりのはず。

農業を職業にする前に本当に自分に向いているか確かめたい。試しに農作業を経験してみたい。プロの農家にいろいろ話を聞いてみたい。このようなニーズに応えるのが「農業体験ツアー」です。JA全農や自治体、民間企業がさまざまなツアーを企画しています。農林水産省が推進する「農山漁村滞在型旅行」、通称「農泊」を利用して農業を体験することも出来ます。

ステップ 2

仕事としての農業を体験

まずは日帰り体験ツアーや農泊で土に触れるところから始め、段階を踏んでプロを目指すことができます。